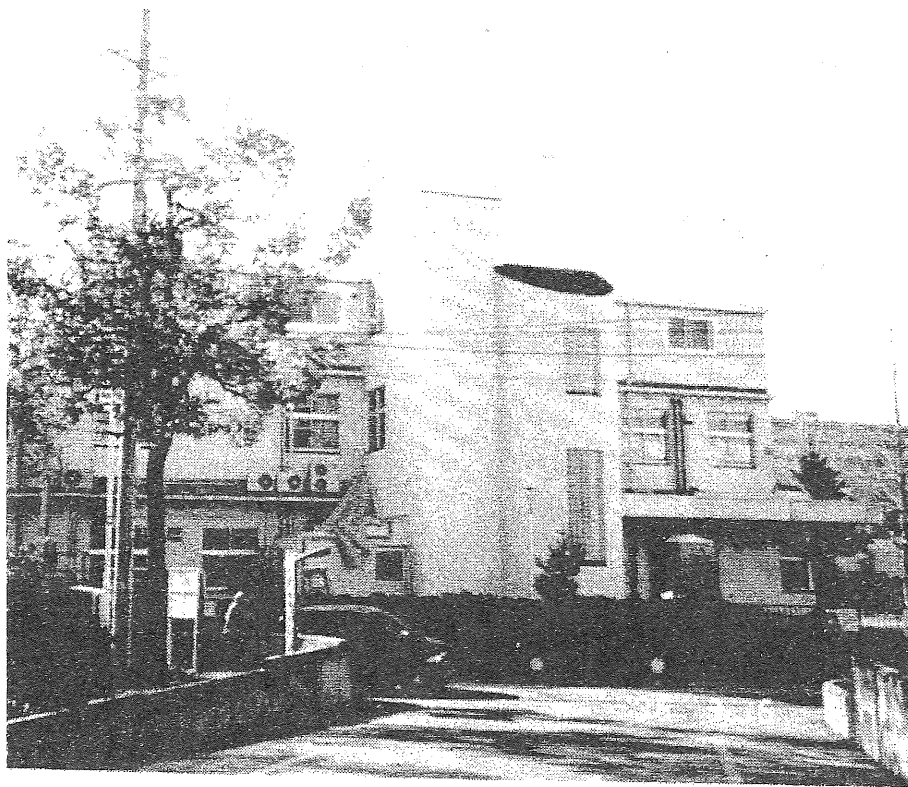


向島の催し、ニュースは、愛隣館研修センターへお知らせ下さい。



社会福祉法人イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸151
TEL 075-621-3849
FAX 075-621-1579
発行 平田 義
編集 恵 大一郎

3階増築工事 終わる！！



色々とご迷惑をおかけいたしました。
これからどうぞよろしくお願ひします。

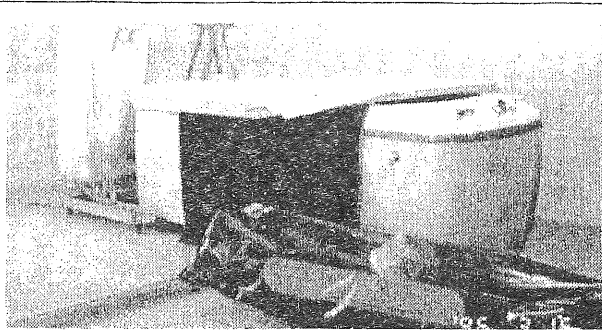
約五カ月にわたる工事もほぼ終え、ついに三階が増築されました。皆さまには工事期間中、大変ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ありませんでした。この場をお借りいたしました。謹んでお詫び申し上げます。

一九七九年に二階の建築を始めてから、一九九三年の工レベーターと厨房、食堂の増改築工事を経て、今回が愛隣館研修センターにとって、最後(?)の大きな工事となりました。

地域のお母さん方が中心となって始められた「ふうせん文庫」の活動から始まり、週三回の「教会学校」、様々な教室活動、また「障害」児者に関わる活動など、皆さまの暖かい見守りの中で、愛隣館研修センターは育まれてまいりました。

その後、九三年に念願の工レベーターが設置され、身体「障害」者のデイサービス事業が始まりました。介護者が不足していたために、日々の食事が満足にできなかったりトイレがでできなかったりしたり地域の「障害」者の方々がおられました。そのような方々が、地域で安心して豊かに暮らしていける一つの支えになればと願って、給食サービス、介護サービスなどを含むデイサービスの事業を展開してきました。

次ページへ続く...



そして、この度、三階部分を増築して、入浴設備を設置し、「障害」者の方々に入浴サービスを提供することになりました。家のお風呂が狭くて入れなかったり、介護者が確保できないでいた「障害」者の方々の願望がようやく実現し、非常に喜ばしい限りであります。

今後とも、地域の「障害」児・者や高齢者の方々が、より安心して豊かに暮らせる一助として、センターの働きが続けていければと願っております。

これからも、より一層のご支援とご協力をよろしくお願いたします。

僕が調べた！！向島の歴史 ～連載を終えて～

今！著者が語る！！その胸のうち



七八年秋にスタートし、七年・一六回という長きにわたって連載してまいりました。車イス吟遊詩人、柏木正行氏の長編スベクタクル「ぼくが調べた・向島の歴史」も前回で怒濤の最終回を迎えました。

そこで、今回はこの長期連載を振り返るべく柏木さんに連載にかけた「思い」を述べて頂きました。

「柏木さん、こんにちは。さて、早速ですが、向島の歴史を調べてみようと思っただけとか、動機についてうかがいたいと思います。又、それはいつ頃のことですか？」

えっ、僕がここに住むようになって、五・六年目くらいかな。自分の住んでいる向島が「歴史都市」京都の中でどんな歴史を経て現在に至っているのか興味が湧いてきたんです。

そうですか。では、実際にその歴史を調べてみて、その調査中という執筆中にどのような事をお感じにな

られましたか。

これは連載中の本文の中でも触れてるんですが、私は「地域史」という点に的を射し取りたかった。これは一九二〇、三〇年代に千拓によって出来た土地なので、ここに住む人々の歴史というのは浅いものなのだなあとということ。

もう一点は、例えば現在ウトロと呼ばれている近辺に飛行場の建設が始まって、多くの朝鮮人が徴用されていた事実が有るはずなのに、そういうことはほとんどの歴史書からは「抹殺」されてしまった。構造的に巧妙に「差別」の実態が隠される体質がこの社会はもっているのだなあと強く感じました。これは、一般的な歴史書を読んでいてもいつも感じることです。

なる程。柏木さんならではの「視点」ですね。さて、最後に、連載を終えて今現在感じることを述べて頂いて結びとしたいと思います。

これを書いた直後（八七年当時）はまだ、一街区も京滋バイパスもなかったし、今よりもガランとしたのんびりした感じでした。大規模なスパー等も出来、向島もその頃から見ると様変わりし、歳月の流れを感じます。

また、どうも人々の心がギスギスしているようなところが感じられるのです。豊かな人間関係をベースに、もっと我々「障害」者が本当の意味で暮らしやすくなっていけるよう、ソフト（主に人の心）ハード両面がよりよい方向で充実していったくれればなと感じています。

映画「奈緒ちゃん」を観て……

去る一月一四日(日)午後より、てんかんと知的障害をもつ少女とその家族の生活を綴ったドキュメンタリー映画「奈緒ちゃん」の上映会が、野の百合幼児園ホールにて開催されました。あいにくの天気にもかかわらず、たくさんの方々に集って頂き、映画のあとに奈緒ちゃんの映画さんの講演会に至るまで熱心に聞き入る方々に感銘を受けました。有難うございました。

当日、映画をご覧になられた、自身も「障害」を持つ子どもさんがおられる方から映画を観ての感想を寄せて頂きました。

又これからも、このような会をどんどん企画・開催していきたいと考えております。

映画「奈緒ちゃん」は、てんかんと知的障害を持つ奈緒ちゃんとその家族を、奈緒ちゃん八歳から二十歳の十二年間に渡って追ったドキュメンタリーです。観ると奈緒ちゃんの笑顔と人なつこさが伝わり、ずっと以前から知り合っていたような感覚に陥り、どんどんと心が引き付けられていきます。小学生の奈緒ちゃんをおいけて登校する名シーン、危険が伴うことは親が教えなければとの思いで日々努力されるお母さんの姿勢に頭が下がりました。叱られているお母さんの辛さが伝わり涙が出てしまいました。更に印

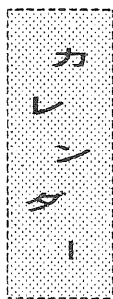
象的だったのは、奈緒ちゃん地域の中で近隣の人と関わりながら大きくなったということ。これはお母さんが奈緒ちゃんと同様の障害を持つ子どもと親とグループを作って共に語り活動することと関連していると思います。子どもが成長するうちに共同作業所の構想が具体化して実現に至ったと考えると凄いです。子どもと共に成長できる親ですばらしいと思えました。敢えて映像には描かなかったそうですが、てんかんに発作が伴います。発作の度に奈緒ちゃんも家族も苦しんだと思うと心が痛みますが、スクスクと明るい娘さんが育った成人式の奈緒ちゃんの着物が素敵でした。「愛される障害者に」地域の中で育てたい「この家族の思いは見事に実践され、奈緒ちゃんと共に生き共に見た人に分け与えてくれます。観終わった時、素直な私がそこにいました。映画のあとで「観て頂くのは恥ずかしいですが、映画は見る人の為にあるものです。」作業所を作るのは、奈緒を育てるより大変でした。これからのお母さんに、私と同じ苦勞をさせたくない」と話してくださった西村信子さん。あの美しさは母としてだけでなく、作業所のリーダーとして責任ある仕事を持つ充実感から生まれたものでしょうか。これからも頑張つて応援したい。この映画を私の住んでいる向島で観ることが出来て幸せに思いました。

お正月に、おせちの配食行なわれる

今年も恒例になりました「おせち」の配食が、向島地域でお一人で暮らしておられる高齢者・「障害」の方々に対して行なわれまして、調理して下さったのは、野の百合幼児園で長年活動しておられる『体操サークル』の方々が担当です。サークルの調理担当スタッフが「お一人暮らしでなかなかいとおせち」まで用意できないという方に大好評でした。尚、愛隣音楽センターで秋に行なわれたチャリティデーコンサートでの収益の一部をこの為に使わせて頂きました。有難うございます。

高齢者の方々と共に「お餅つき」大会

去る三月七日(日)、愛隣館にて、高齢者の方々と園児たちとの楽しい交流・おもちつき大会が開催されました。当日はお天気にも恵まれた各老人クラブ等からも参加された方々が、園児たちと一緒にもちつきに汗を流し、ついたおもちを丁寧にこねていただきました。その後、園児らの歌や劇を見ながら一緒におもちを食べました。次年度もより多くの方々に参加して頂いて、地域の中で楽しい交流の時間が持てれば幸いです。皆様、どうもありがとうございます。



◇デイサービス・お花見日程、行き先その他詳しいことは未定。

◇年度末休館日◇ 三月二八日(休)、二九日(休)、三〇日(休) 職員研修プログラムを予定。

編集後記 #

年度代わりの慌ただしい日々を皆様方はどのように過ごされているでしょうか。研修センターでは、工事の完成にともない、入浴サービスのスタートに向けて、てんてこまいといつたところですが、最初はなかなか皆様の細かいニーズにこたえていくのが難しいかも知れません。最大限の努力を払って準備していきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

次号には、入浴の様子をお伝えできるかと思っております。それでは次号まで……

